

平成 20 年度原子力土木委員会 議事録

日時： 平成 21 年 5 月 14 日(木) 14:00-17:00

場所： 土木学会 AB 会議室

出席者：

駒田委員長，仲村氏（藍田委員委員代理），井上委員，大西委員，金谷委員，國生委員，佐々木委員，柴田委員，土委員，豊川委員，平岡委員，福島委員，佐伯氏（別枝委員代理），松下委員，松本委員，丸山委員，松村氏（宮川委員代理）

当麻幹事長，青柳幹事，大鳥幹事，玉田幹事，都築幹事，仲村幹事，松村幹事，松山幹事，上田氏，河西氏，榊山氏

議事概要：

1．話題提供

河西氏（電力中央研究所）より以下の題目について話題提供があった。

「低レベル放射性廃棄物余裕深度処分技術に関わる民間規格化に向けた土木学会の活動」

本話題提供に対し，着目する性能と保持する期間の考え方，記録の取扱い方法などに関する質問があり，また，コンクリート委員会からローマ時代のコンクリートの調査結果が報告された旨の情報提供があった。

2．各部会の H20 活動報告と H21 活動計画の審議

（1）活断層評価部会

平成 20 年度の活動として，「実務者のための地質・地盤の調査・評価の手引き」作成に向けた基礎資料として，新耐震設計審査指針に照らした耐震バックチェックにおける各社の対応状況についてアンケート調査を行ったこと，その中で共通して見られる専門家からの指摘事項と課題，今後の研究課題についてとりまとめたことが報告された。これに対して，専門家の指摘事項が何を指すのかという質問があり，国の耐震バックチェックで委員から出た意見であるとの回答があった。

平成 21 年度計画として，上記基礎資料をもとに作業会で手引きに含める項目の抽出と項目ごとの手引き案の作成を進め，WG 及び部会にて審議することが提案された。これに対して，地震動評価において重要である土木と建築の情報共有をどのように進めるか質問があり，WG で地震動の専門家にも入って頂いてご意見を頂くなど，両者のインターフェースを重視しながら検討を進めるとの回答があった。

（2）地盤安定性評価部会

H20 年度活動報告として，平成 19 年度までの部会活動の成果に基づき土木学会出版物「原子力発電所の基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価技術＜技術資料＞2009 年 2 月」を刊行し，これに併せて，平成 21 年 3 月に土木学会講堂において，「原子力発電所の基礎地盤及び周辺斜面の耐震安定性評価に関するシンポジウム」を開催したことが報告された。また，H21 年度は受託研究課題に基づく部会の開催予定はないことが説明された。

これに対して、部会開催が必要な場合には原子力土木委員会からの経費の支出が可能である旨のコメントがあった。

(3) 構造健全性評価部会

H20 年度活動報告として、原子力発電所屋外重要土木構造物の構造健全性評価に関するガイドラインの講習会の開催、ならびに課題「原子力発電所屋外重要土木構造物の構造健全性評価の高度化に関する研究」の審議状況が報告された。また、H21 年度活動計画として、課題「原子力発電所屋外重要土木構造物の構造健全性評価の高度化に関する研究」の H21 年度研究内容の審議を行うことが説明された。

これらに対して、課題に関連する構造実験に用いる試験体の仕様の設定理由について質問があり、地中構造物を想定した仕様である旨の回答があった。

引き続き「新潟県中越沖地震後の柏崎刈羽原子力発電所土木構造物健全性評価WG」の H20 年度活動報告が行われ、H21 年度についてもWGを継続していきたいとの説明があった。

(4) 津波評価部会

全体の活動計画を紹介した後に、平成 20 年度活動報告として、津波による海底地形変化の評価手法の検討と津波ハザード解析手法に内容について説明が行われた。前者については、新たな流砂量式を用いた地形変化モデルについて、港湾における津波の移動床実験の結果と 1960 年チリ津波の八戸港の地形変化実測結果によって検証されたことが紹介された。後者については、「確率論的津波ハザード解析の方法」(部会委員会のみ公開)をとりまとめたことが報告された。さらに、津波ハザード解析への高潮の影響評価について、確率的台風モデルを用いて検討したところ、高潮偏差と比較して津波高が小さい場合や津波高のばらつきが小さい特殊な場合を除いて高潮が津波ハザード解析に与える影響が小さいことが紹介された。最後に、H21 年度の活動計画について紹介された。

これらに対して、地形変化モデルについては成果の公開はなされるのかという質問があり、今秋の海岸工学講演会で発表予定であるとの回答があった。次に、これまでの地形変化モデルとの関係はどうなのかという質問があり、これまでの代表的な地形変化モデルの流砂量式に対して粒径の適用範囲が拡張されたモデルであり、それを否定したのではなく、包含したものであるとの回答があった。ハザード解析モデルの非公開の理由について質問があり、これに対して公開に関しては全会一致しなかったため非公開になったが、次期研究フェーズの後には改訂した上で公開する予定であるとの回答があった。高潮の検討については、「確率論的津波ハザード解析の方法」について含まれているのかと質問があり、含まれているとの回答があった。津波が大きい場合、高潮の影響が低いということは、確定論に適用できるのかという質問があり、確定論では、高潮と津波を重ね合わせることになるので高潮の影響が低いという議論ではなく、対象とする高潮を考慮するという事となるとの回答があった。

以上の審議の後、活断層評価部会、地盤安定性評価部会、構造健全性評価部会ならびに津波評価部会の H20 年度活動報告および H21 年度活動計画が承認された。

3. その他

特に議事はなかった。

以上